



2023年12月期
第2四半期
決算説明資料



2023年8月22日
株式会社やまびこ



INDEX

1. 2023年12月期第2四半期 決算概要 3

2023年12月期第2四半期 総括	4
2023年12月期第2四半期 経営成績	5
連結売上高の地域別増減（円換算ベース）	6
連結営業利益の増減	7
四半期別業績推移	8
セグメント別経営成績	9
セグメント別売上高実績（地域別）	10

2. 2023年12月期業績予想 11

2023年12月期 通期予想	12
連結売上高の地域別増減予想（円換算ベース）	13
連結営業利益の増減予想	14
売上高予想（セグメント・地域別）	15
設備投資・研究開発費・減価償却費	16
業績推移	17
株主還元政策	18

3. 中期経営計画2025の進捗状況について 19

中期経営計画2025の事業戦略	20
① 事業規模拡大（海外OPE事業）	21
① 事業規模拡大（農林事業・産機事業）	22
② 収益性の改善	23
③ 新規事業創造	24
④ ESG経営の実践	26
⑤ やまびこのDX戦略	27

APPENDIX 29

会社概要	30
やまびこの歩み	31
業績推移と売上構成	32
事業セグメント：小型屋外作業機械（OPE）	33
事業セグメント：農業用管理機械	34
事業セグメント：一般産業用機械	35
国内生産体制	36
海外生産体制	37
主な販売経路	38
海外市場での販売とユーザー	39
日本市場での販売とユーザー	40
主なグループ会社の状況	41
関連指標等	42

1

2023年12月期 第2四半期 決算概要

2023年12月期第2四半期 総括

主力の海外OPEは、北米や欧州各国で発生した天候不順による草木や芝生の生育不良や、代理店等の在庫圧縮が販売に影響したが、一般産業用機械が北米市場における旺盛な建設、エンターテインメント需要を背景に発電機の好調な販売が継続し伸長。

国内は継続する肥料・燃料価格の高騰を背景に農業従事者の購買意欲が減退していることに加え、新製品の発売遅延の影響もあり販売が減少。

市場	セグメント		前年同期比 ^{※1}	当社販売状況
国内	小型屋外作業機械		▲ 2.9%	継続する肥料・燃料価格高騰の影響を受けて、引き続き防除機の販売が落ち込んだことに加え、第1四半期は堅調だった農家向けの刈払機やチェーンソー販売が減少したことで減収。
	農業用管理機械		▲ 10.7%	農業従事者の購買意欲減退に加え、一部製品群で実施した安全性の高い製品への切り替えに伴う販売停止の影響を補うことができず減収。
	一般産業用機械		▲ 9.3%	溶接機販売の減少に加え、部品調達遅延による発電機の供給不足や新製品販売の遅れなども影響し減収。
海外	小型屋外作業機械 (OPE) ^{※2}	北米市場	▲ 6.6%	需要期の春先から各地で発生した天候不順が影響し減収。
		欧州市場	▲ 3.1%	各国での干ばつや熱波による天候不順が影響し減収。
	農業用管理機械	北米市場	▲ 7.6%	穀物価格が高値安定する市場環境により高水準の生産が継続しているものの、部品調達遅延による供給不足が発生し減収。
	一般産業用機械		+ 56.3%	北米市場での旺盛な建設、エンターテインメント需要を背景に発電機の好調な販売が継続したことで大幅な増収。

※1 為替の影響を除いた売上増減率 ※2 「OPE」 = Outdoor Power Equipment

2023年12月期第2四半期 経営成績

- 売上高は、国内では農業従事者の購買意欲の低下により、主に農家向けの販売が減少したほか、部品調達遅延や新製品販売の遅れなどの影響により一般産業用機械も減収。一方、海外では各国で天候不順の影響を受けたものの、北米市場における一般産業用機械の伸長や円安による押し上げ効果もあり増収。
- 営業利益は第1四半期に引き続き、前期に積み上がった北米子会社の製品および生産用部材の在庫販売が順調に進捗したことに加え、為替の影響および昨年から国内外で段階的に実施してきた価格改定の効果により増益。経常利益および最終利益も増益となり、過去最高利益となった。

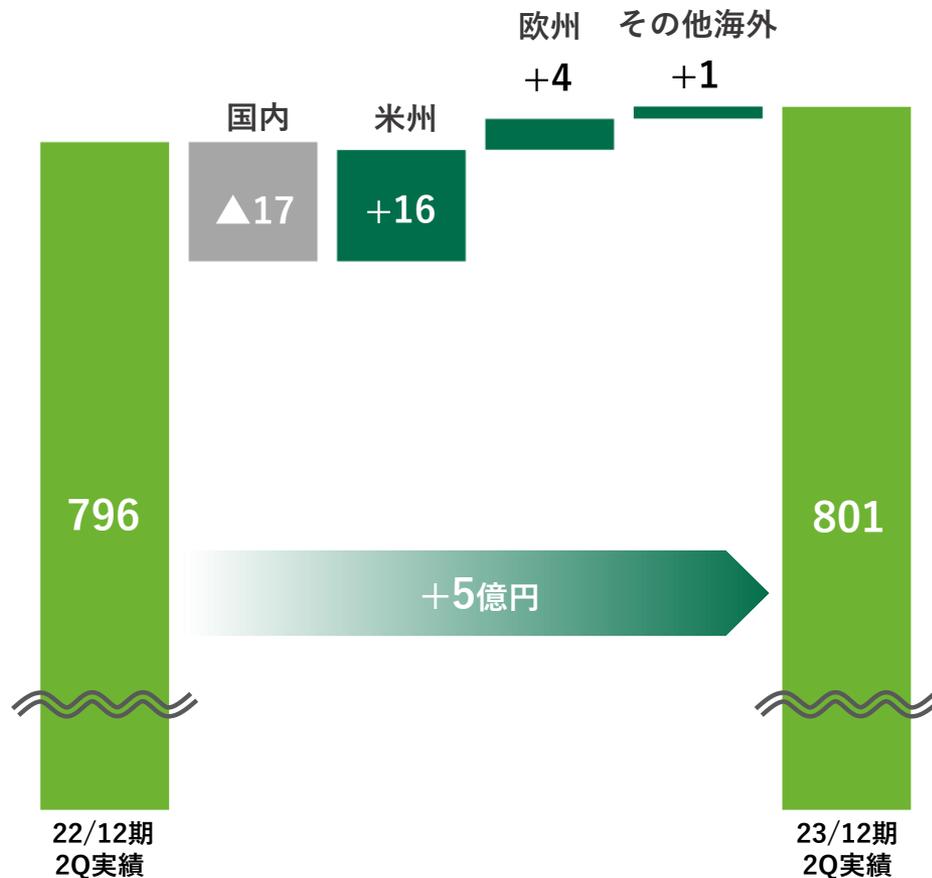
(百万円)	22/12期 2Q実績	構成比 (%)	23/12期 2Q実績		
			23/12期 2Q実績	構成比 (%)	前年比 (%)
売上高	79,640	100.0	80,153	100.0	+ 0.6
売上原価	58,067	72.9	53,863	67.2	▲ 7.2
販管費	15,205	19.1	16,065	20.0	+ 5.7
営業利益	6,367	8.0	10,224	12.8	+ 60.6
経常利益	7,568	9.5	10,630	13.3	+ 40.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,850	7.3	6,718	8.4	+ 14.8

■ 為替レート

1ドル	121 円	135 円	+ 11.0%
1ユーロ	133 円	145 円	+ 9.0%

連結売上高の地域別増減（円換算ベース）

（億円）



国内

肥料・燃料価格の高騰による農業従事者の購買意欲減退が影響し、農家向け販売が減少。一般産業用機械も部品調達遅延や新製品販売の遅れなどが影響し減収。

米州

天候不順の影響を受けたものの、北米市場において一般産業用機械の販売が伸長したほか、円安による押し上げ効果が寄与し増収。

欧州

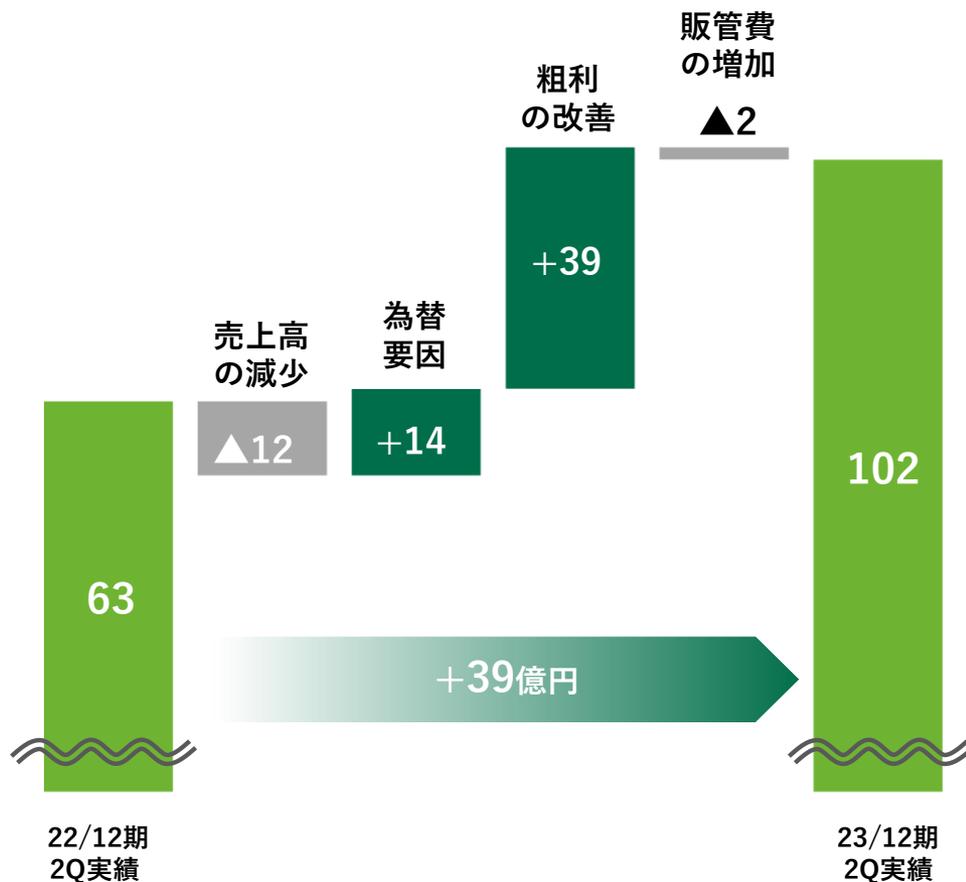
干ばつなどの天候不順の影響を受けたものの、円安による為替効果もあり増収。

その他海外

オセアニアで一般産業用機械の販売が伸長したことに加え、中近東でOPE販売が増加したことなどにより増収。

連結営業利益の増減

(億円)



売上高要因

為替の影響を除いた実質売上高の減少。

為替要因

円安に伴う利益の増加。

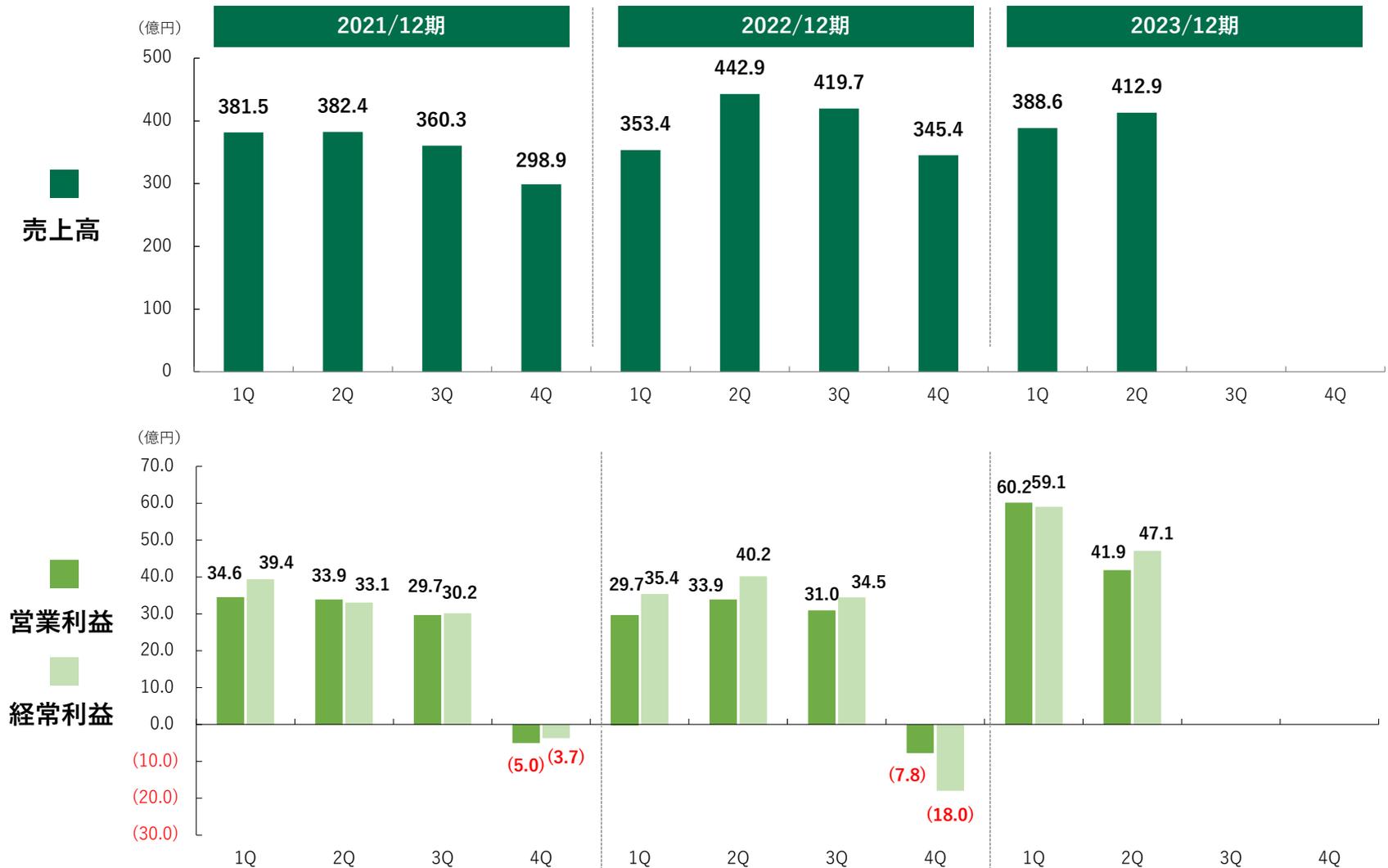
粗利

調達価格の上昇や前年同期に対する操業度低下の影響を受けたものの、前期に積み上がった北米子会社の利益率の高い在庫(未実現利益)の販売が順調に進捗し、粗利が改善。

販売管理費

主に人件費の増加など。

四半期別業績推移



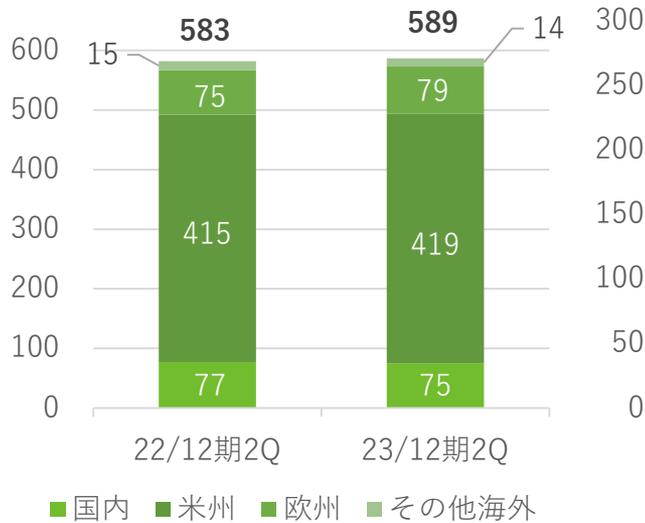
セグメント別経営成績

(百万円)	22/12期 2Q 実績	構成比 (%)	23/12期		
			2Q 実績	構成比 (%)	前年比 (%)
売上高	79,640	100.0	80,153	100.0	+ 0.6
小型屋外作業機械	58,350	73.3	58,913	73.5	+ 1.0
農業用管理機械	13,009	16.3	12,029	15.0	▲ 7.5
一般産業用機械	7,309	9.2	8,286	10.3	+13.4
その他	969	1.2	924	1.2	▲ 4.7
営業利益	6,367	-	10,224	-	+ 60.6
小型屋外作業機械	9,128	143.3	13,161	128.7	+ 44.2
農業用管理機械	468	7.4	779	7.6	+ 66.6
一般産業用機械	555	8.7	1,036	10.1	+ 86.4
その他	173	2.7	169	1.7	▲ 2.5
全社共通費	▲ 3,957	-	▲ 4,922	-	-

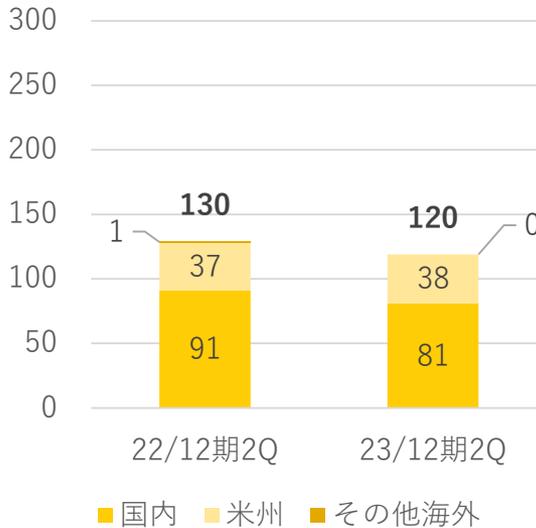
セグメント売上高実績（地域別）

(単位：億円)

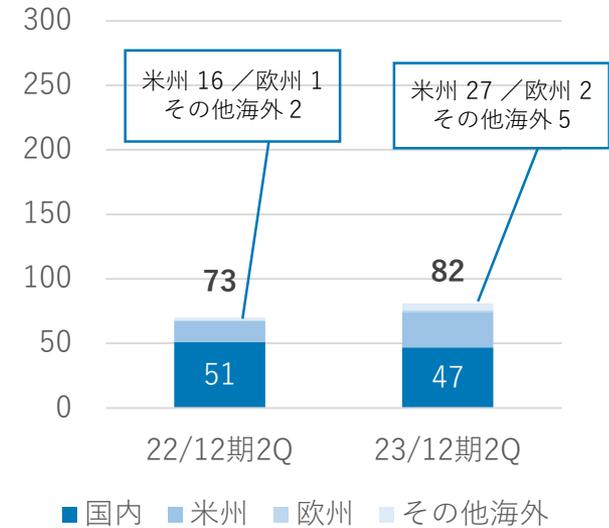
小型屋外作業機械（OPE）



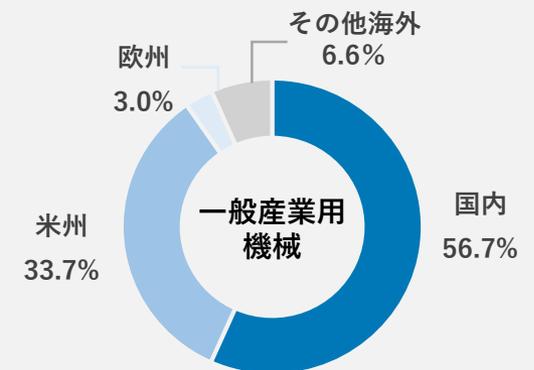
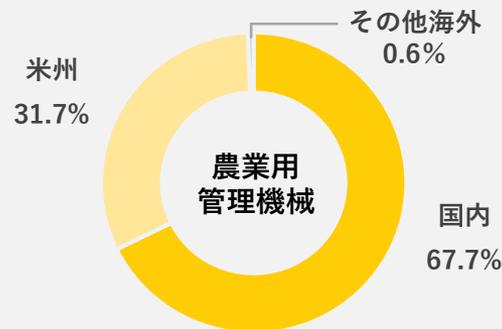
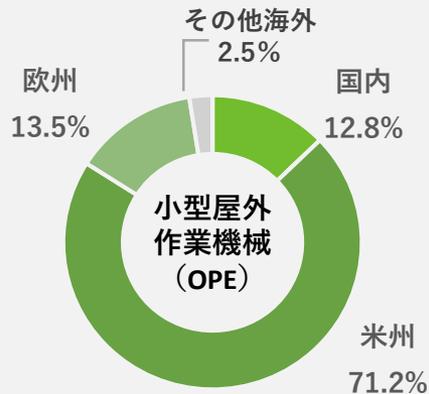
農業用管理機械



一般産業用機械



地域別比率（2023年12月期第2四半期）



2

2023年12月期 業績予想

2023年12月期 通期予想

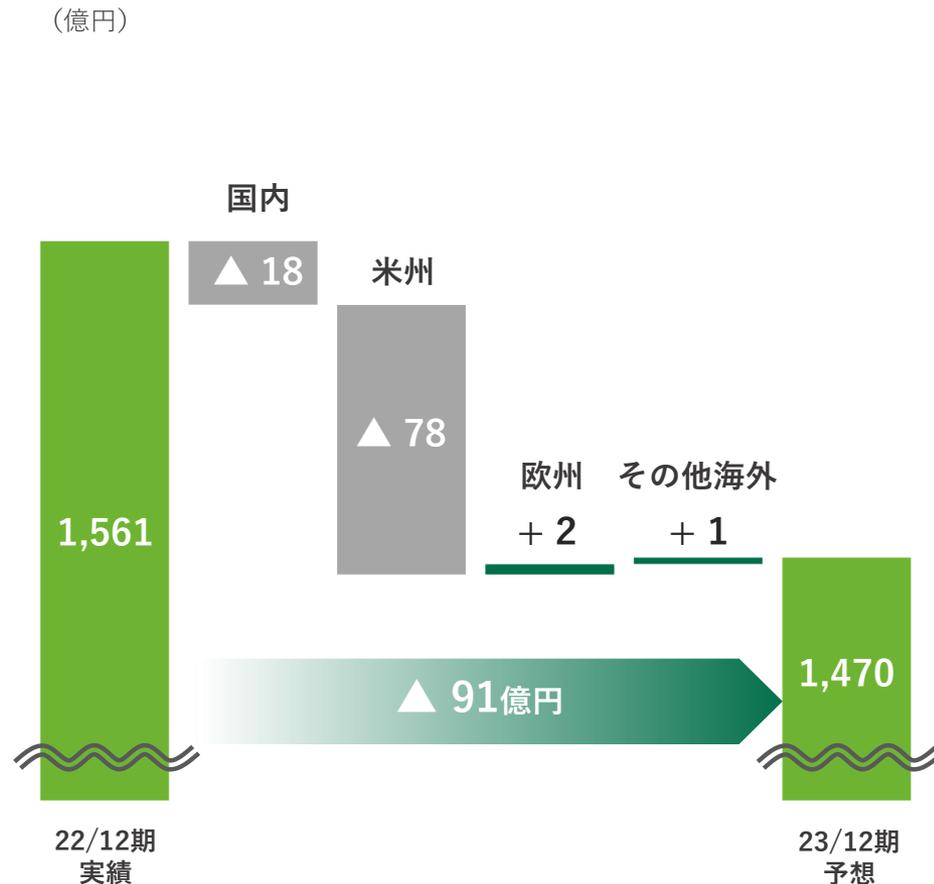
- 売上高は、海外での金利上昇や不透明な景気動向の影響を受けて、小型屋外作業機械では代理店等の在庫圧縮の継続が見込まれるとともに、一般産業用機械においても顧客事情による一部出荷遅れ等の影響も想定されることから、減収を見込む。
- 収益面は、前年対比では増益を見込むも、売上高の減少ならびに小型屋外作業機械の収益性改善を目的とした製造拠点の集約化に向けた子会社の解散および清算による追加費用が発生。営業利益、経常利益、最終利益を前回見通しから下方修正するも、過去最高利益の見通し。

(百万円)	22/12期 実績	構成比 (%)	23/12期 予想			23/12期 前回予想 2月13日発表
				構成比 (%)	前年比 (%)	
売上高	156,159	100.0	147,000	100.0	▲ 5.9	157,000
売上原価	115,664	74.1	101,000	68.7	▲ 12.7	109,000
販管費	31,806	20.4	33,500	22.8	+ 5.3	34,500
営業利益	8,688	5.6	12,500	8.5	+ 43.9	13,500
経常利益	9,217	5.9	12,200	8.3	+ 32.4	12,800
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,299	4.0	7,600	5.2	+ 20.7	8,300

■ 為替レート

1ドル	128 円	135 円	+ 5.3%	130 円
1ユーロ	138 円	150 円	+ 9.0%	140 円

連結売上高の地域別増減予想（円換算ベース）



国内

継続する肥料・燃料価格高騰の影響を受けて、引き続き農業従事者の購買意欲低下が想定されることから、農家向け販売の減少による減収を見込む。

米州

北米市場において一般産業用機械販売の増加を見込むものの、OPEでは代理店等の在庫圧縮の継続が見込まれることから販売が減少し、減収を見込む。

欧州

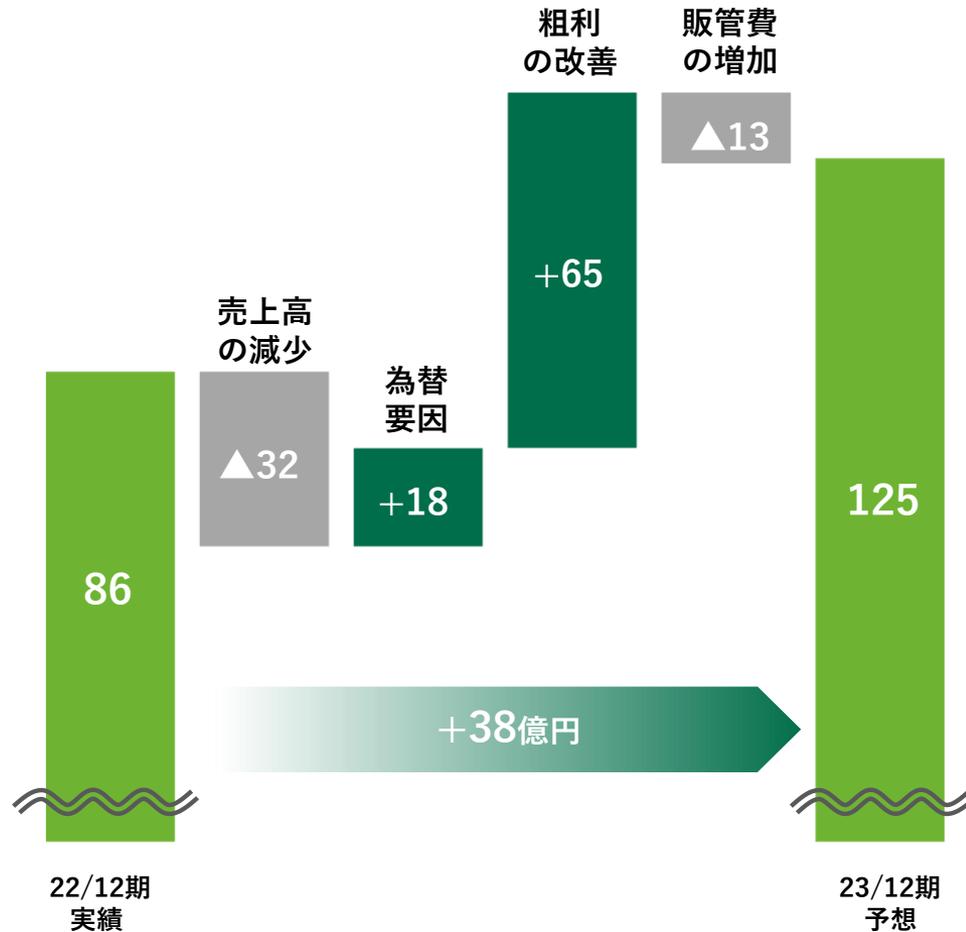
干ばつ等の天候不順の影響を受けるものの、円安による為替効果もあり、前年並みの水準を見込む。

その他海外

中近東やアジア向けのOPE販売の増加を見込むものの、その他地域における販売が減少し前年並みの推移に。

連結営業利益の増減予想

(億円)



売上高要因

為替の影響を除いた実質売上高の減少。

為替要因

継続する円安が利益増加に寄与。

粗利

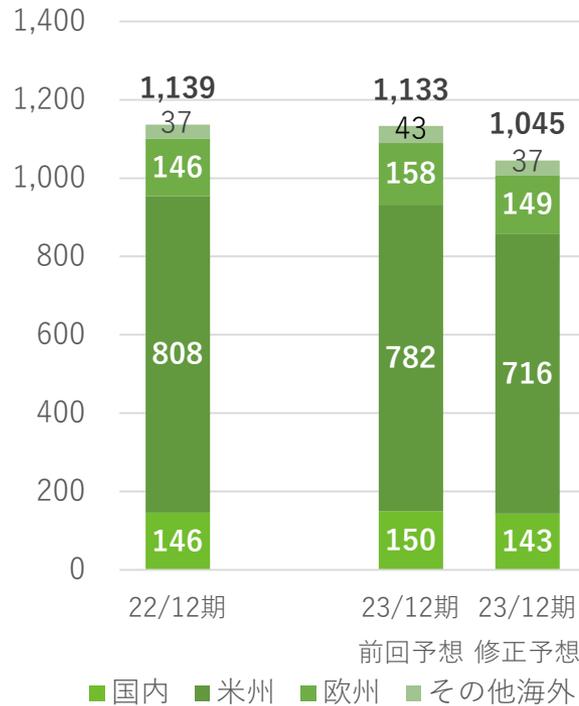
引き続き前期に積み上がった北米子会社の利益率の高い在庫(未実現利益)販売の進捗が粗利の改善に寄与。

販売管理費

国内と北米の人件費と開発・IT関連費用の増加など。

売上高予想（セグメント・地域別）

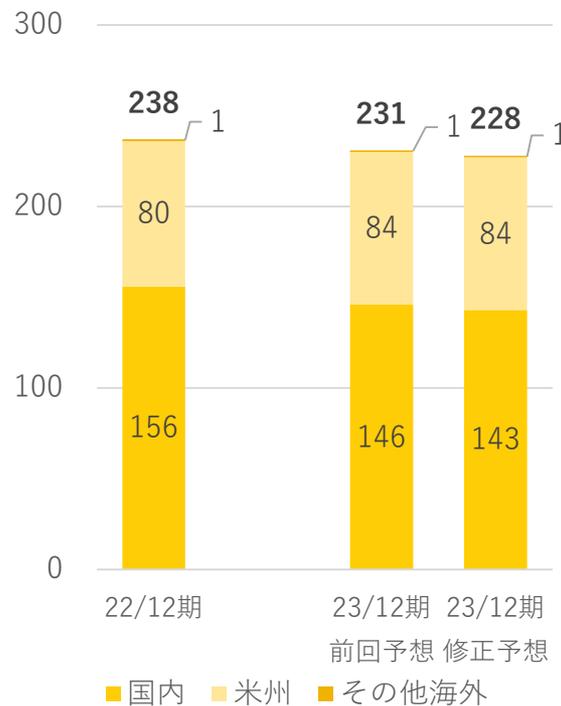
小型屋外作業機械



修正の理由

北米、欧州各国で発生した干ばつや熱波などの天候不順の影響により販売が減少していることから、見通しを下方修正

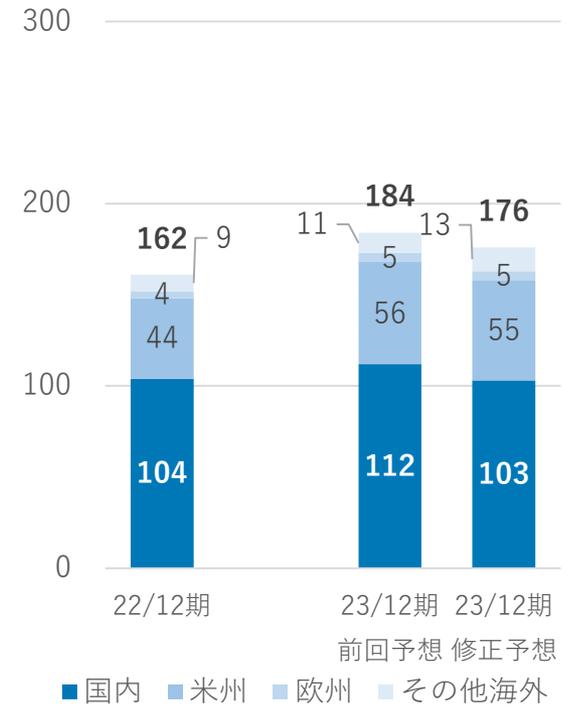
農業用管理機械



修正の理由

引き続き肥料・燃料価格の高騰に対する農業従事者の購買意欲減退を見込み、見通しを下方修正

一般産業用機械

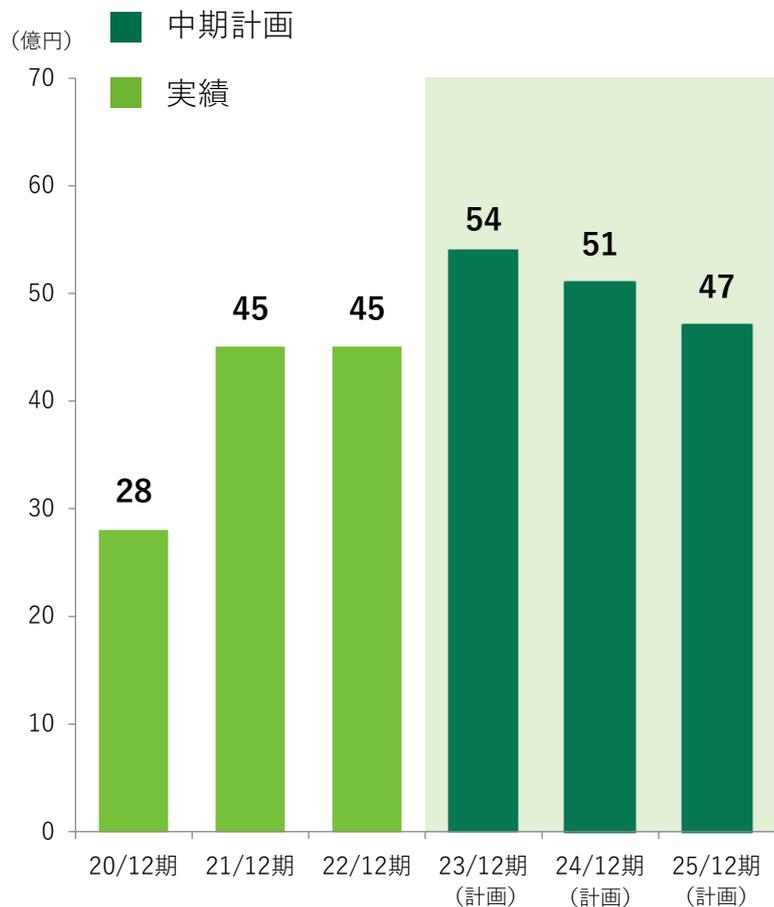


修正の理由

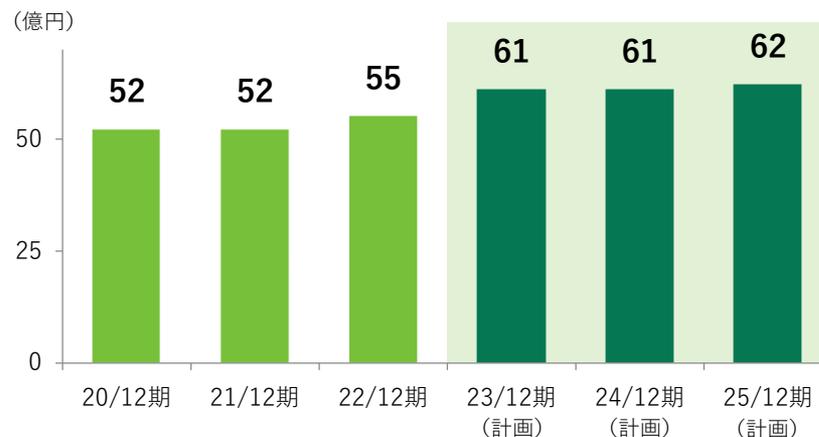
部品調達不足による発電機の供給不足や、新製品販売の遅れにより国内販売が減収しているため、見通しを下方修正

設備投資・研究開発費・減価償却費

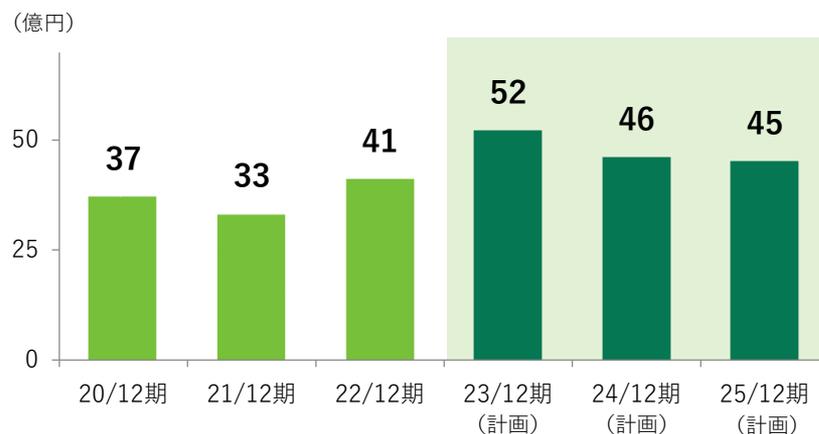
設備投資



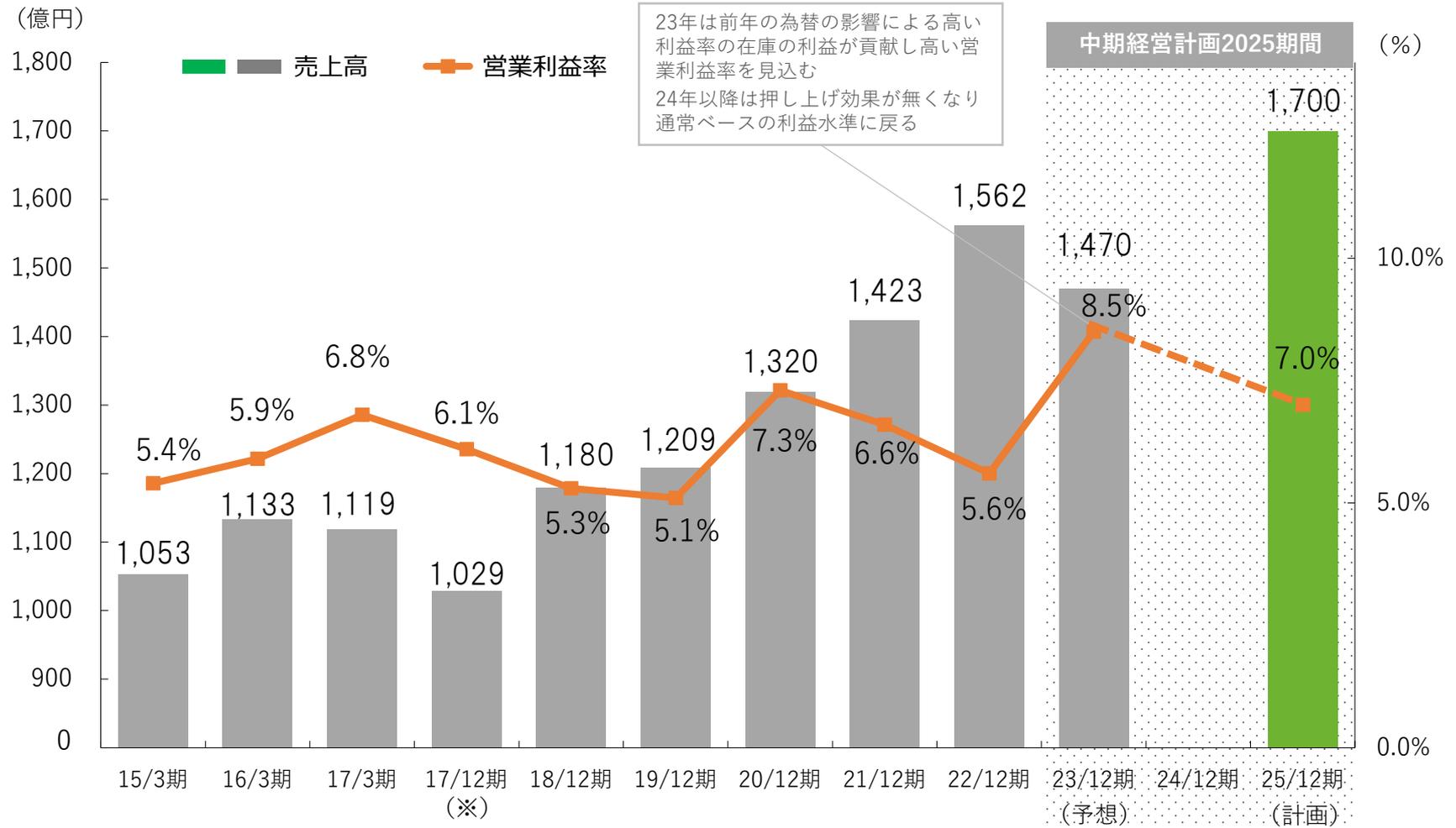
研究開発費



減価償却費



業績推移

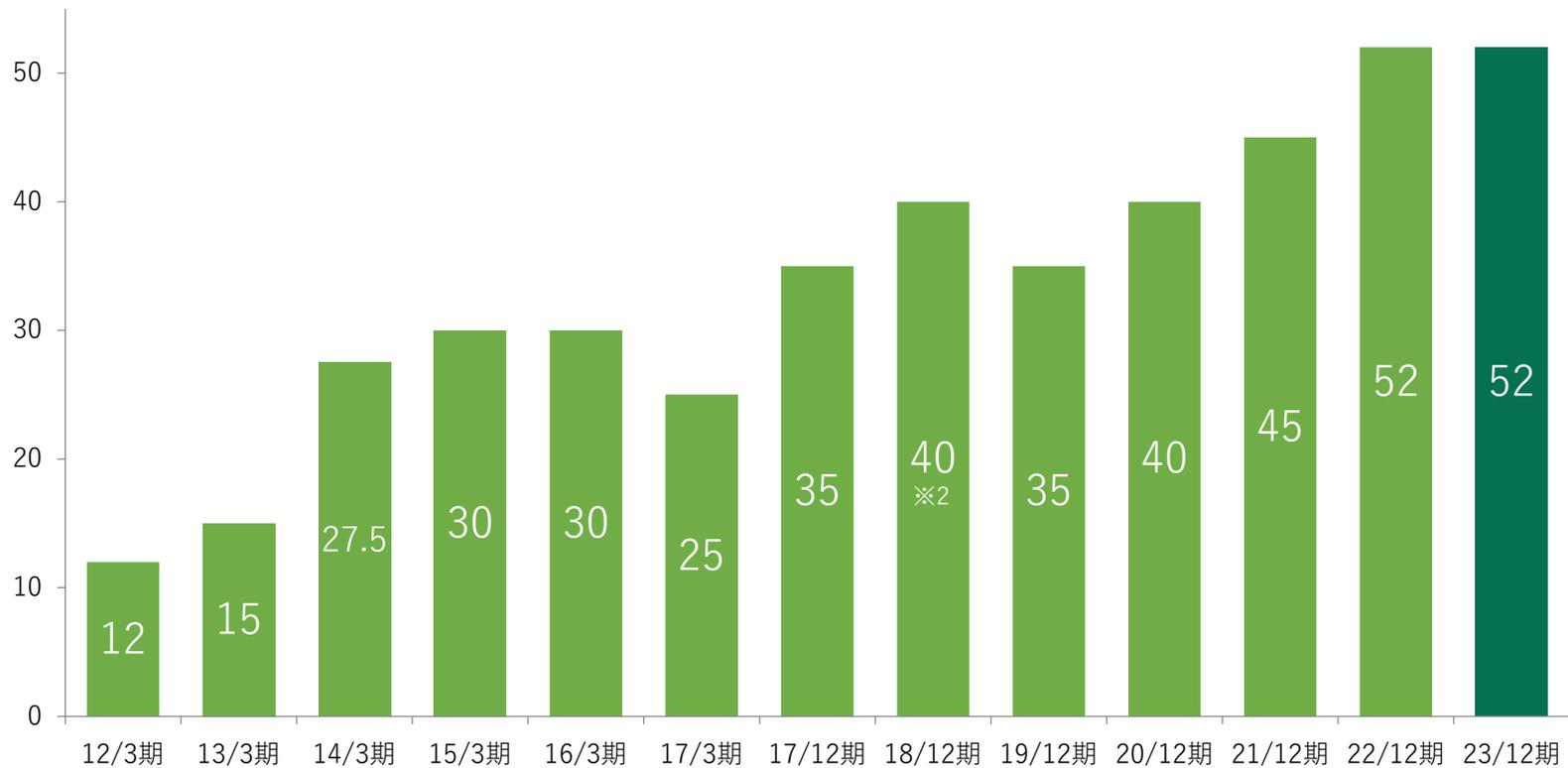


(※) 17/12期は決算期変更のため9ヶ月決算

株主還元政策

過去の配当実績に基づき、安定的な配当を継続

- 経営環境や業績および財務状況を勘案するとともに、株式市場の動向も注視して総合的な還元策を検討



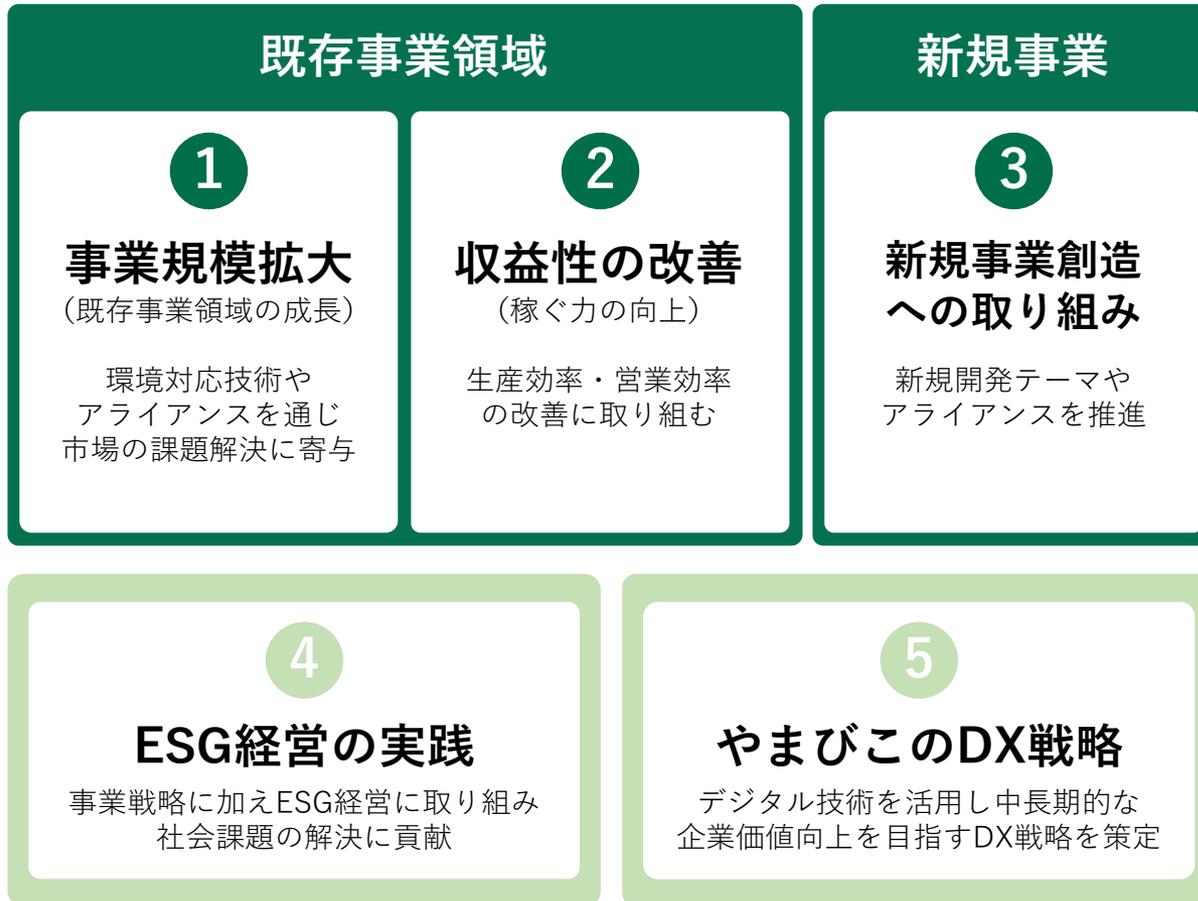
※1. 2015年10月1日付で株式分割を行っております。各期を比較しやすいように、株式分割考慮後の金額を記載しております。

※2. 設立10周年記念配当5円を含みます。

3

中期経営計画2025 の進捗状況について

企業理念と経営目標の実現に向けて、事業戦略に基づく諸施策に取り組む

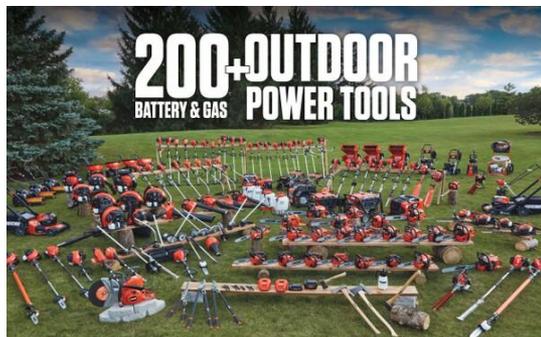


① 事業規模拡大（海外OPE事業）

- ・一般ユーザーのバッテリー製品需要の増加に対し、引き続きラインアップを拡充し販売を強化
- ・バッテリー製品では作業ニーズを満たすことが難しいプロユーザーに対しては、引き続き作業効率と環境性能に優れたエンジン製品を提供し続ける

北米市場の上期OPE売上推移

新型コロナによる巣籠需要が発生
 今期は春先からの天候不順があったものの着実な成長を継続



エンジン・バッテリー製品による充実のラインアップ

【北米市場】 【欧州市場】

- ・作業ニーズに対応したエンジン・バッテリー製品を供給

【プロユーザー】

- ・プロ向け製品群「Xシリーズ」の継続推進
- ・エンジン・バッテリー製品のラインアップ充実
 ⇒熱制御、作業効率に優れるバッテリー製品でプロユーザーの支持を獲得
- ・WiseNav対応ロボットモアの拡販に注力

【一般ユーザー】

- ・新製品投入によるラインアップの強化
 ⇒北米市場にバッテリー自走式草刈機投入

【アジア市場】

- ・新市場開拓の途上

① 事業規模拡大（農林事業・産機事業）

農林事業

- ・成熟する国内市場に対し、市場が抱える社会課題の解決に寄与する製品を開発

高い安全性と作業性、環境技術を備えた製品の開発

- ・安全性能を強化した保護フレーム付スピードスプレーヤの販売開始
⇒グループ全体で事故防止に向けた安全啓蒙活動を実施
- ・ハイブリッドエンジン搭載のラジコン草刈機の販売開始
⇒草刈作業の負荷軽減と雑草管理における化学農薬の使用削減に貢献
- ・農業Weekに省人・省力化に寄与する電動作業機と自律走行型草刈機のコンセプトモデルを展示予定
⇒ 農業Week 日程：2023年10月11日(水)～13日(金) 会場：幕張メッセ



産機事業

- ・環境負荷軽減を目的とした省人・省力化、電動化・ハイブリッド化、再生可能エネルギーを取り入れた環境配慮型システムの開発を推進
- ・現場管理や関連サービスの作業効率向上に貢献する遠隔監視のシステム開発を推進

環境負荷低減と作業効率向上を両立した製品の開発

- ・バイオ燃料等の燃料多様化に対応したディーゼル発電機の開発
⇒コンセプトモデルの展示会への出展
- ・環境性能を武器とした製品の拡販
⇒ハイブリッド溶接機を環境意識の高い欧州各国に販売
- ・電力サービスに向けた取組み開始
- ・省人・省力化につながるYAMABIKO LINKの機能・サービスを提供



② 収益性の改善

「稼ぐ力」を高め、持続的な成長を確かにする

生産拠点の戦略的再配置

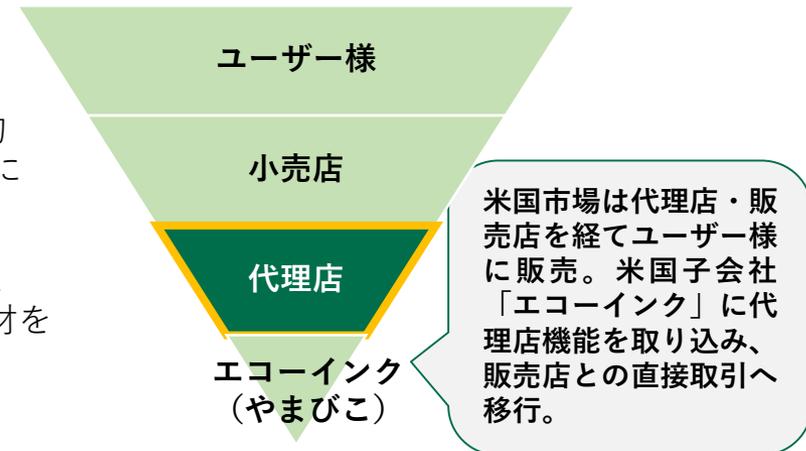
2022年の蘇州山彦農機有限公司清算に続き、
子会社である愛可機械（深圳）有限公司の解散および清算を決定

- OPE事業の収益性改善施策の一環として、
当社の連結子会社である愛可機械（深圳）有限公司を2024年1月を目処に解散し、
清算手続きを開始することを決定
- 中国で行っているOPEの製造工程を国内の事業所に集約化し、
北米との2極による効率的な生産体制への再編を図り、QCDの向上を目指す

DX活用による収益性の向上

米国子会社における販売商流変革のプログラムに着手

- 米国子会社とその子会社代理店を統合し、北米販売店約
6,500店の内、約2,000店と直接取引を行う（既存代理店に
は既に説明済）
- 販売店との直接取引により販売業務の効率化を目指す
と共に、販売情報の取得により2030年にむけて新たな商材を
追加予定



③ 新規事業創造

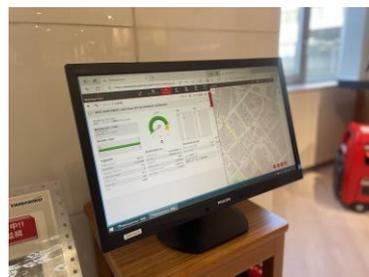
発電・蓄電システム

ハイブリッド自律型エネルギーシステム開発に向けた共同実証実験の実施

- 太陽光路面発電パネルと発電機からの受電による「ハイブリッド自律型エネルギーシステム」の事業化に向け、資本業務契約締結先のMIRAI-LABO社と共同開発を開始
- 現在は、本システムの妥当性検証のため、当社の本社屋上に小規模実験設備を設置し、実証実験を実施



本社屋上の小規模実験設備



発電機運転状況のモニタリングの様子

ロボット事業

WiseNav対応ロボットモアを欧州市場へ導入

- 従来のロボットモアで必要だった作業領域へのワイヤー設置を不要とする機能(WiseNav)を開発し、欧州市場向けに導入を開始
- 物理的なワイヤーの敷設が不要となったため、導入時の作業が大幅に簡略化したほか、スマホアプリやWebポータルを通じて作業領域の設定・編集が可能となり、ユーザーの利便性が大きく向上



ロボット、基地局、Webポータル、スマホアプリが連携し、導入時の手間やコストが大幅に削減可能に

③ 新規事業創造

ロボット事業

スガダイラーズとの共創

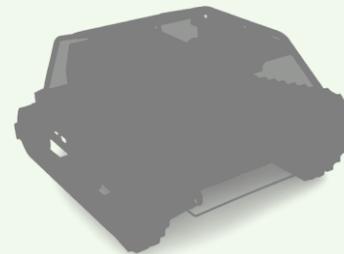
- 国内ロボットモア事業の取組強化と地域共創を目指した取組み。ラグビーなどのスポーツ合宿が盛んな長野県菅平高原地区の旅館組合様に対して、グラウンド整備の省力化を目的にロボットモアのモニタリングを実施中
- 地域振興を目指している同地域のコミュニティ「スガダイラーズ」と協力し、双方のSNSを通じてお互いの活動状況および当社ロボットモアをPR



菅平高原地区にて稼働する当社のロボットモア

第13回農業Weekにて自律走行型草刈機を展示予定

- 10月11日～13日にかけて開催される第13回農業Weekにて、草刈作業の省力化を実現する自律走行型の草刈機やロボットモアを展示予定
- その他、農作業の電動化および省人・省力化に寄与する環境技術や作業機、システム等を多数出展・提案予定



自律走行型の草刈機



ロボットモア

④ ESG経営の実践

サステナブルとなるESG経営を実践し中長期的に企業価値を向上

事業活動を通じて、環境、就労人口不足などの社会課題の解決に貢献するとともにガバナンス体制の運用と深化、情報発信の充実に継続して取り組む

Environment (環境)

- GHG排出量の削減目標を定め削減策を着実に実行
 - 目標値を [当社ホームページ](#) に掲載済
 - 環境関連の社内委員会を年内に発足予定
気候関連課題について継続的に対応するための体制を整備
- 環境負荷の低い製品を開発・販売し市場の環境負荷低減に貢献
 - 農作業の電動化対応促進
(10月開催の農業Weekで自律走行型草刈機を出展)
 - バイオ燃料等の燃料多様化に対応したディーゼル発電機の開発
 - 既に開発したハイブリッド溶接機を環境意識の高い欧州各国に販売

Social (社会)

- 多様な人材の活用に加え人材育成、社内環境整備など人的資本投資を継続
 - 『男性の育休ハンドブック』
を作成・啓蒙し、男性社員の育児休業の取得を促進 
 - デジタルリテラシー向上のため、全社員を対象にEラーニングを実施
 - 会社の理念啓蒙活動の継続
- 安全・安心なものづくりで作業事故を低減
 - JAや地域販売店と協力し、安全啓蒙活動を徹底
- 農業・林業の次世代育成支援を通じて業界の発展に貢献
 - ハヶ岳中央農業実践大学校にて試作機の運転や、社員を派遣しての安全講習の実施

Governance (企業統治)

- ガバナンス体制の運用と深化
 - プライム企業として期待されるコーポレート・ガバナンス体制の強化
- ESG情報開示の拡充
 - ホームページ上で環境関連情報の継続的なアップデート、および人的資本に関する取組みを今秋公表
 - 外部評価機関(CDP)へ情報を積極的に提供し、フィードバックを活用
(2022年は「B-」スコアの評価)
- 情報セキュリティ体制の充実
 - グループ情報セキュリティ方針に基づき、海外子会社も含めた全社的な運用に着手

⑤ やまびこのDX戦略

経済産業省の定める「DX認定事業者」に認定

- ホームページ上にDX戦略を公表し、デジタル技術を活用した生産性の向上や収益性の改善、新規ビジネスの創出などに取り組むほか、デジタル人材の育成を実施
- これらの取組みがDX推進の準備が整っていると判断され、2023年4月には経済産業省の定める「DX認定事業者」に認定

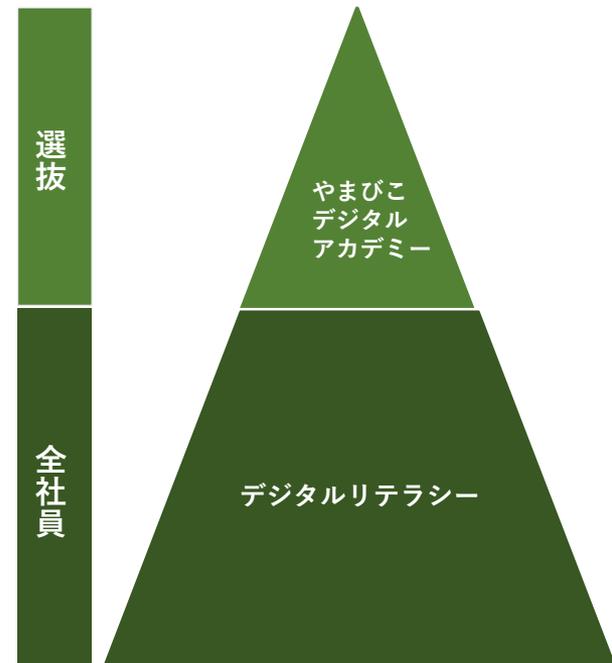


やまびこデジタルアカデミーの開校

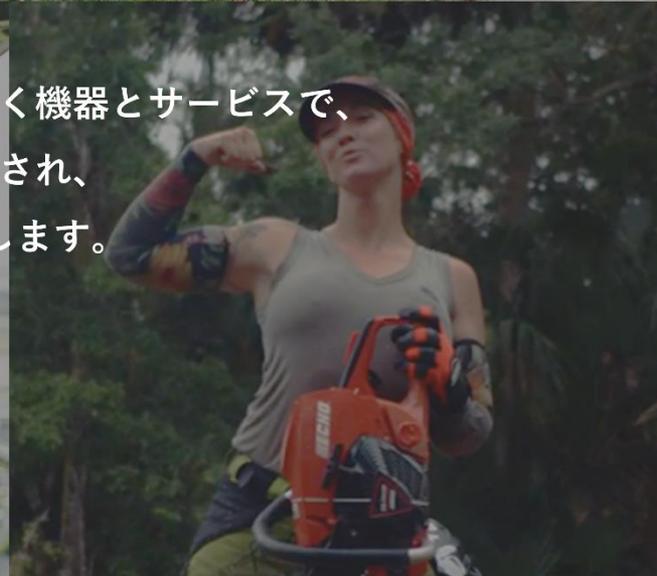
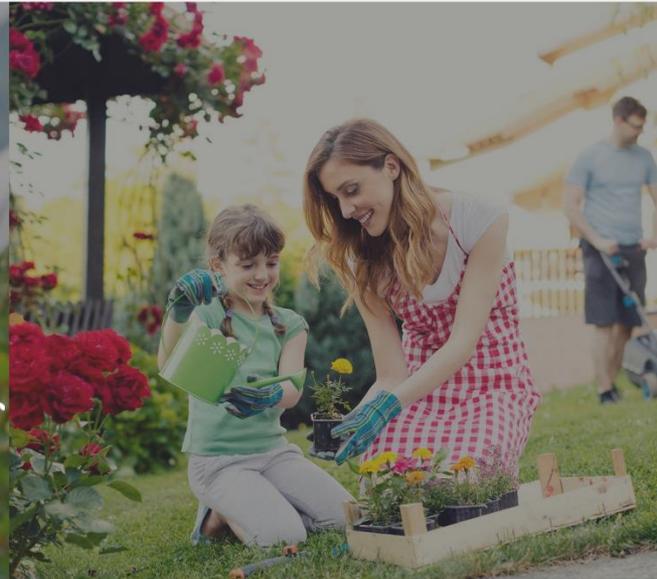
- 全社より選抜した社員を対象に、やまびこデジタルアカデミーを開校
- 外部講習や社内教育を通して課題解決に必要なデジタルスキルを習得させ、職場でのデジタルツールの導入を推進できるレベルの人材を育成

Eラーニングを活用した全社員のデジタルリテラシー向上

- ITツールの活用、DX入門といった基礎レベルの教育プログラムの受講による全社的なデジタルリテラシー向上のため、全社員を対象にEラーニングを実施
- 2023年内に全社員が受講完了予定



やまびこの存在意義



私たちやまびこグループは、
世界最高レベルの環境技術と安全・安心で革新的な良く働く機器とサービスで、
社会と人々に信頼と感動をもたらし、期待され、
豊かな自然と共生する輝く未来創りに貢献します。

APPENDIX

会社概要

会 社 名	株式会社やまびこ (YAMABIKO CORPORATION)
設 立	2008年12月1日
本 社	東京都青梅市末広町一丁目7番地2
売 上 高	156,159百万円 (2022年12月期連結)
資 本 金	6,000百万円
決 算 期	12月31日
連 結 子 会 社 数	14社※ (国内6社・海外8社／2022年12月末現在)
従 業 員 数	3,331名 (2023年6月末現在／連結)
上 場 市 場	東京証券取引所プライム
証 券 コ ー ド	6250
発 行 済 株 式 総 数	44,108,428株 (2023年6月末現在)
単 元 株 式 数	100株

※持分法適用関連会社1社を除く

やまびこの歩み



世界初となる手持ちブロワに加え、国内初の背負式刈払機やスピードスプレーヤなどを開発

KIORITZ **ECHO**



2000年代の排出ガス規制強化・業界再編を経て、歴史と実績のある2社が合併。経営基盤強化とシナジー効果の発揮により、持続的成長を目指して設立

KIORITZ

shindaiwa

ECHO

E 株式会社 **共立**

設立 1947年 (昭和22年)

YAMABIKO

株式会社やまびこ

設立 2008年 (平成20年)

新タイワ工業株式会社

設立 1952年 (昭和27年)



電動チェーンソーを経て、世界初となる混合式4サイクルエンジンやマルチ発電出力などを開発

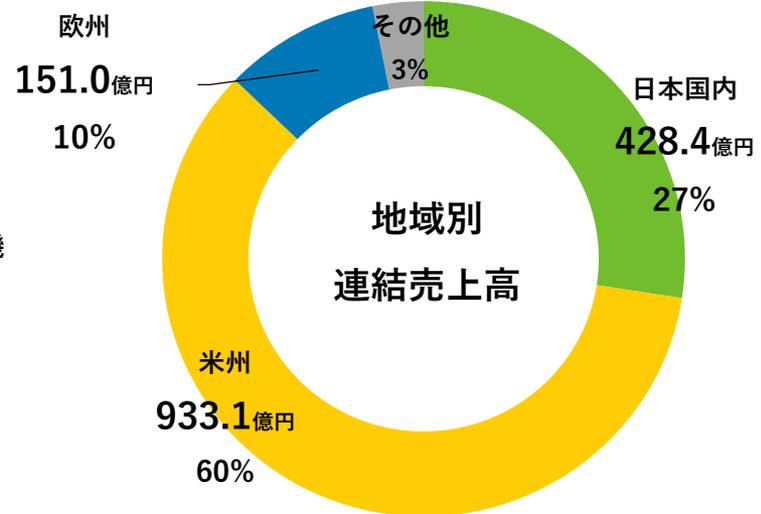
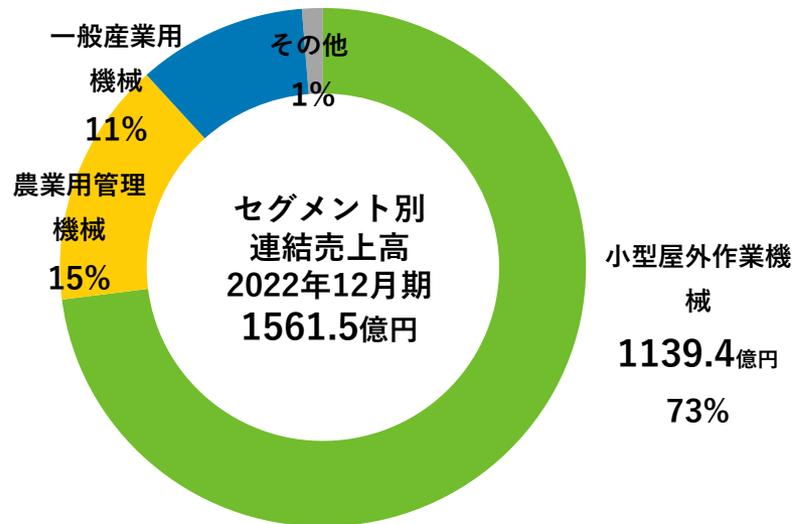
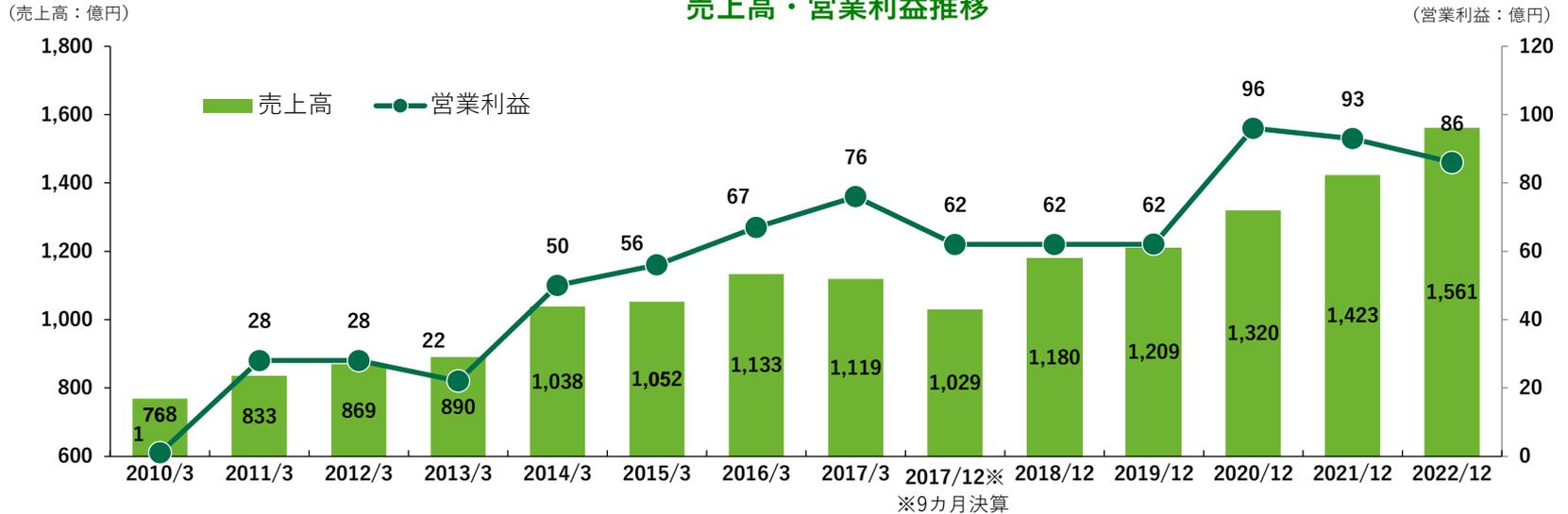
shindaiwa

社名の由来

山の神様である「山彦」を社名に掲げ、自然と環境の育成、整備への貢献を理念に持つ会社姿勢の象徴とする

業績推移と売上構成

売上高・営業利益推移



事業セグメント：小型屋外作業機械（OPE）



売上高構成比

73.0%

（2022年12月期）

国内は農家・林業家の芝刈や伐木用として、海外はOPE※と称され、主に緑地管理を事業とする専門業者が庭や緑地の管理に使用する作業機として販売

海外においては造園業など緑地管理を事業とする専門業者向けのプロユーザー市場と主に自家用で使用する住宅所有者向けの一般ユーザー市場に分類

製品は動力源にエンジンやモーターを搭載した屋外作業機のほか、ロボット芝刈機も含む



技術的な強み

世界最高レベルのエンジン開発力

高品質・環境規制に適合したエンジン

- 小型・軽量・高出力（手持機械に最適）
- 環境対応エンジン認証数、業界トップクラス
- 鋳造から組立までを一貫して自社で行う生産体制
- 鉄めっき・放電加工など独自の技術を保有

市場ニーズを満たす製品開発力

- プロユーザー向けの高い作業効率を持つ製品を開発



※Outdoor Power Equipment

事業セグメント：農業用管理機械



売上高構成比

15.3%

(2022年12月期)

国内における防除機械、
北米における
農作物収穫機械の製造販売



乗用管理機



スピードスプレーヤ



畦草刈機



ポテト収穫機（北米）

技術的な強み

培った防除技術にICTを融合し、 スマート農業に貢献

送風技術・噴霧技術・散布技術

- 水田、畑作、果樹、施設栽培などあらゆる栽培体系において均一散布を実現
- 低騒音・大風量を実現する送風システムを開発
- 農薬飛散を低減させるやまびこノズルの自社開発

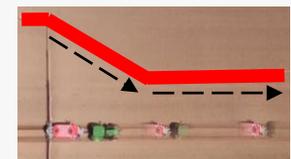


やまびこノズルの
噴霧状態（扇形状）
（平均粒子径
110~270 ミクロン）

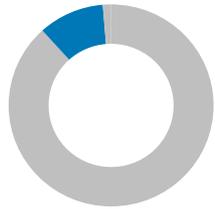


ICT

- 世界標準の通信技術（ISOBUS）を用いて、トラクタと相互通信
- 全球測位衛星システム（GNSS）により圃場内に適正な量の農薬を適正な場所にムダなく散布
- 設定した圃場の形状に合わせて散布エリアを自動制御する世界初の技術



事業セグメント：一般産業用機械

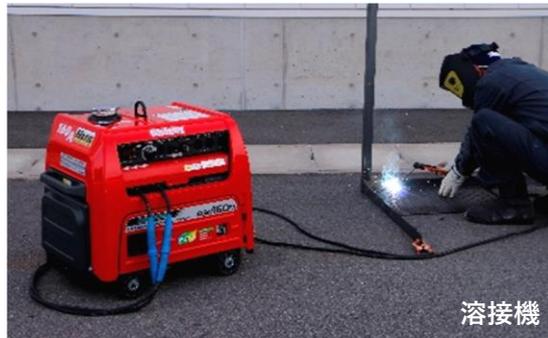


売上高構成比

10.4%

(2022年12月期)

建設工事・防災・減災のほか
資源採掘現場やイベント会場等で用いられる
機械の製造販売



溶接機

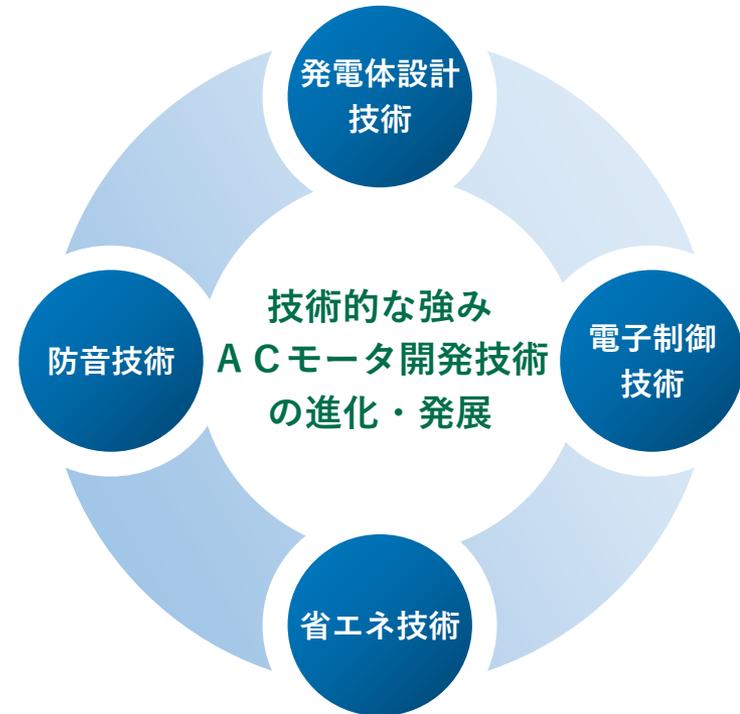


発電機



投光器

技術的な強み



世界初の三相/単相3線
切替なし同時出力可能
(米国特許・国内特許取得済み)



「ダブルECO」
低燃費・騒音排出ガス効果に優れた2つのエコ機能の開発

国内生産体制

- 生産事業所
- 生産子会社

生産本部盛岡事業所

小型屋外作業機械の製造
 (機械加工・塗装・組立等)
 防除機の製造(板金・塗装・組立等)

※ 防除機の搭載エンジンは他メーカーからの調達



本社



生産本部横須賀事業所

小型屋外作業機械の製造
 (鋳造・金属処理・機械加工・組立等)



生産本部 広島事業所

小型屋外作業機械の製造
 (機械加工・組立等)
 発電機・溶接機・電動工具
 の製造(組立等)

※ 発電機等の搭載エンジンは他
 メーカーからの調達

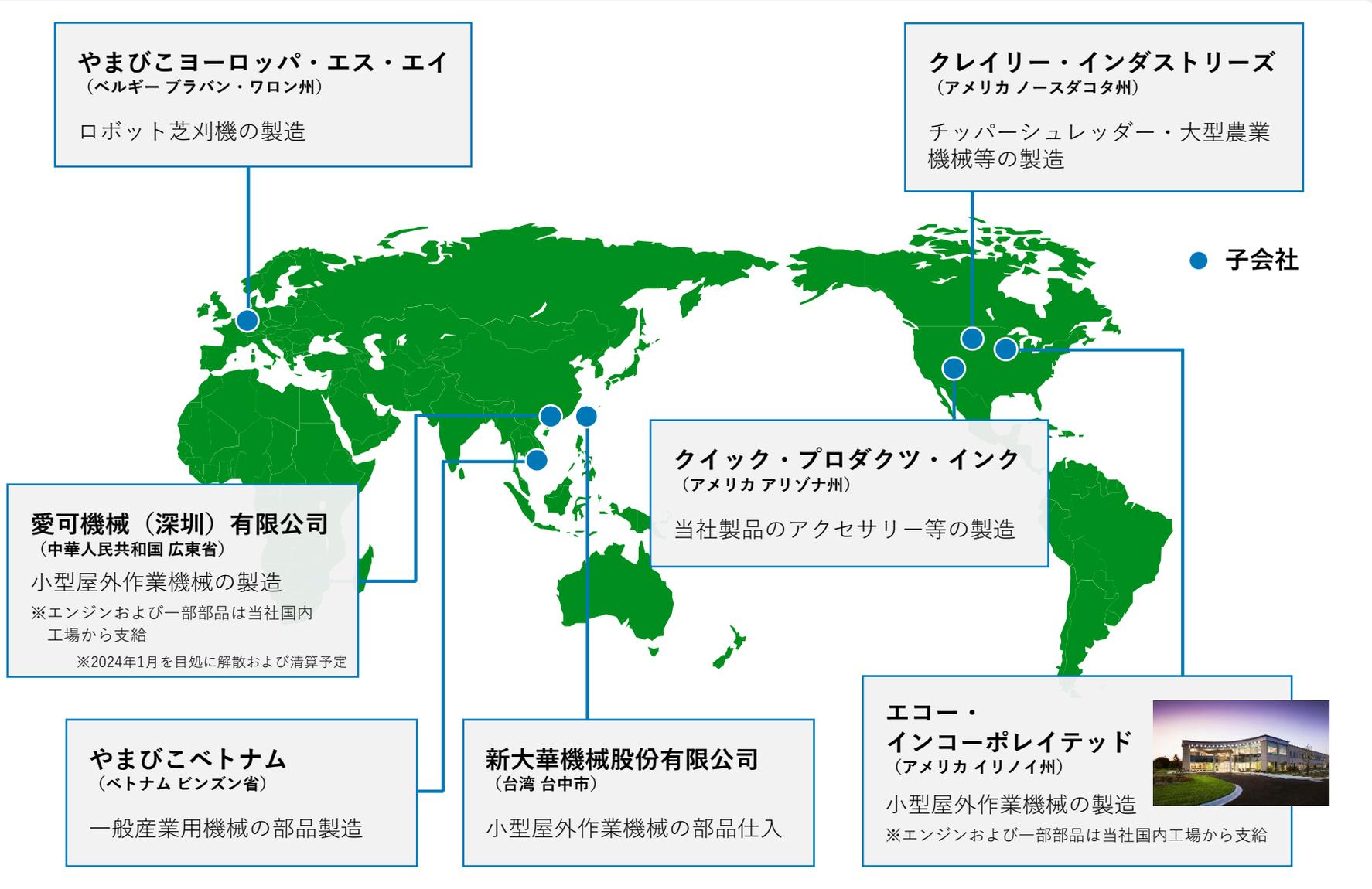


生産関連子会社

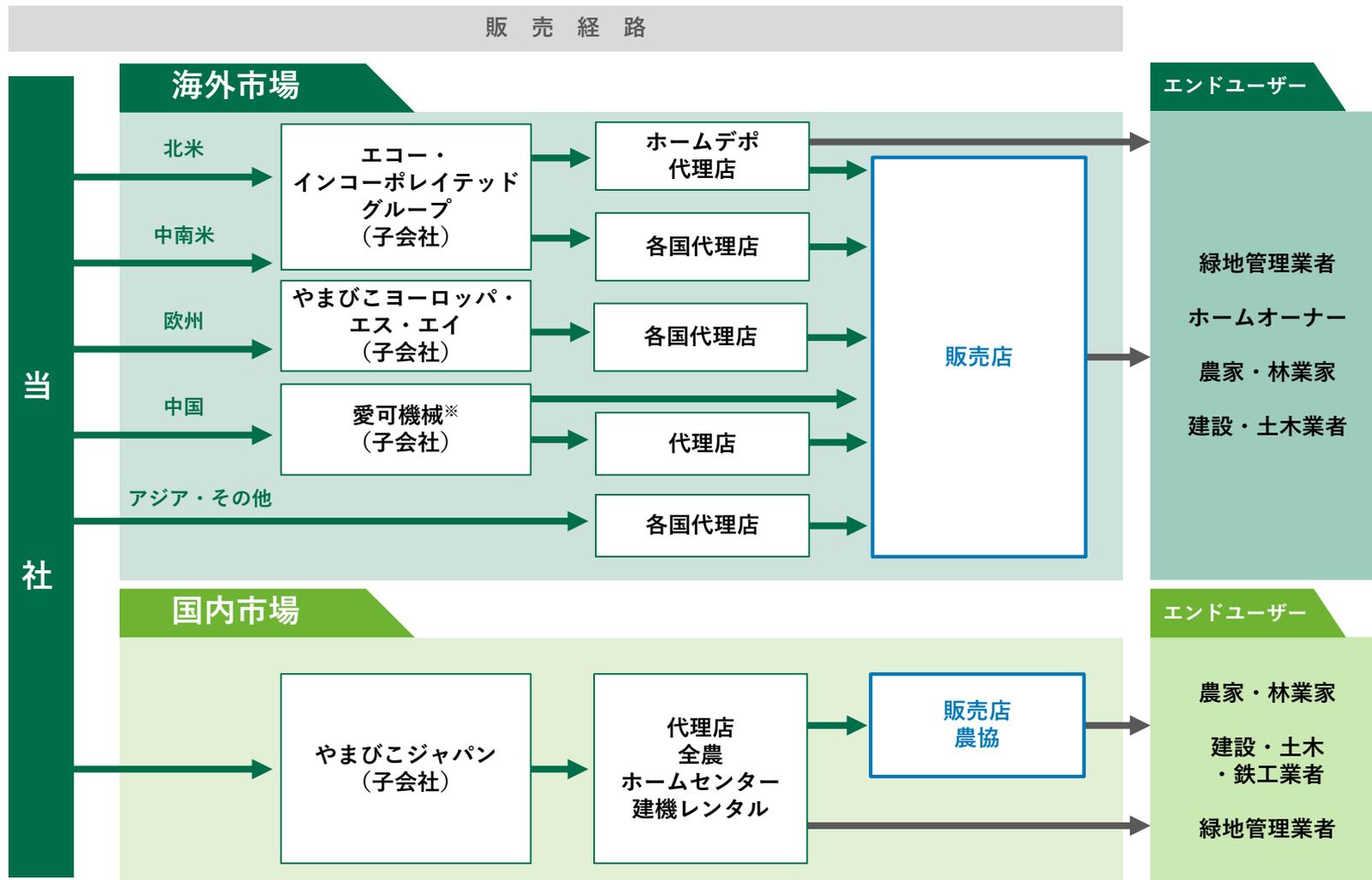
- 追浜工業株式会社 (横須賀市) : 電装部品
- 双伸工業株式会社 (青梅市) : 樹脂部品
- 株式会社ニューテック (長野市) : 試作部品
- やまびこエンジニアリング株式会社 (安芸高田市) : 板金加工



海外生産体制



主な販売経路



※2024年1月を目処に解散および清算予定

海外市場での販売とユーザー

販売店

ホームセンター、農機具店、ハードウェアストア、販売代理店など



- 海外における販売店では主にプロユーザー向けに高い作業効率と耐久性を有する製品を販売
- ホームセンターにおいてはハイエンドホームユーザー向けに品揃え

エンドユーザー



緑地管理業者



ホームオーナー



農家・林業家



建設・土木業者

日本市場での販売とユーザー

販売店

農協、農機具店、建機レンタル会社、ホームセンターなど



- プロユーザー向けには販売店や代理店と協力しながら展示会を実施し、実演や試乗を通じて販売
- 建設向けは、金物店や建機レンタル会社を通じて、個人ユーザーにはチェーン展開するホームセンターなどで販売

エンドユーザー



農家



建設・土木・
鉄工業者



林業家

主なグループ会社の状況

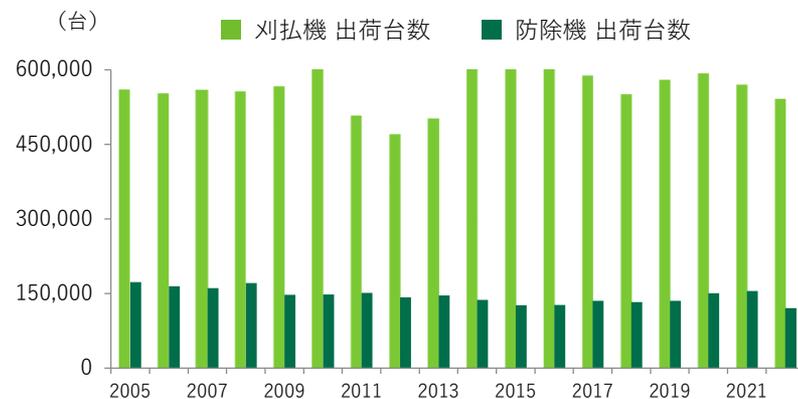
	海外	小型屋外作業機械	農業用管理機械	一般産業用機械
生産販売		エコー・インコーポレイテッド やまびこヨーロッパ・エス・エイ 愛可機械※	クレイリー・インダストリーズ	エコー・インコーポレイテッド
生産		クイック・プロダクツ・インク 新大華機械		やまびこベトナム
販売		ゴールデンイーグル ディストリビューティング		
	国内			
販売		やまびこジャパン		
生産		追浜工業 双伸工業		やまびこエンジニアリング

※2024年1月を目処に解散および清算予定

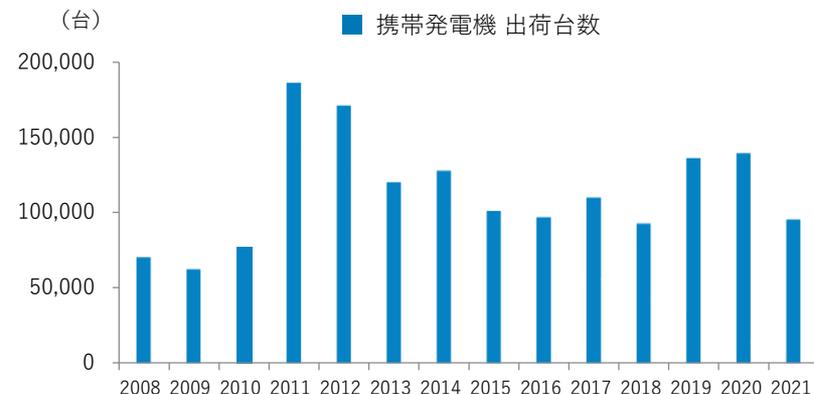
関連指標等

事業	関連指標等
小型屋外作業機械	(一社) 日本農業機械工業会出荷実績 (刈払機)、米価 等
農業用管理機械	(一社) 日本農業機械工業会出荷実績 (防除機)、米価 等
一般産業用機械	(一社) 日本陸用内燃機関協会 (携帯発電機)、 (一社) 日本建設機械工業会出荷金額統計 (その他建設機械)、 建設関連業等の動態調査報告、工作機械受注高 等

出荷実績



注：会員企業の入退会に伴い、2014年4月より報告会社数が変更。
 (防除機：7社→6社、刈払機：11社→12社)
 (一社) 日本農業機械工業会出荷実績



(一社) 日本陸用内燃機関協会携帯発電機研究会集計 (3kVA以下)

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

お問い合わせ先

株式会社 やまびこ 企画・経理本部 経営企画部

〒198-8760 東京都青梅市末広町1-7-2

e-mail : ir6250@yamabiko-corp.co.jp